

大学オンラインバスケットボール授業実践報告

A Report of University Online Classes About Basketball

東 條 佳 史*・益 川 満 治**・渡 邊 陵 由***

Yoshifumi TOJO, Mitsuharu MASUKAWA, Takayuki WATANABE

キーワード：バスケットボール，オンライン授業，状況判断力，認知学習

【要旨】

本報告は，オンラインで行うバスケットボール授業を，学生の受講環境を考慮し，状況判断力や指導の知識を獲得することを目的とした。授業は，Youtubeで動画を視聴し，レポート課題を提出し，ZoomやWebclassのチャット機能を活用したリアルタイムでの質疑応答を行える状態を作った。成果として，授業アンケートから，実技が行えなかったが，その分学びが深まるような記述が見られ，認知学習が促進された可能性が確認できた。課題として，運動を行うことで得られる技能の習得や体力の向上といった学習の担保が行えなかった。さらに，学習者が授業者になった際，バスケットボールの示範を行うことができない可能性が推察できた。今後，オンライン授業時のバスケットボール実技実施について，技能獲得や示範技術獲得の点からも授業の可能性を探る必要があると考える。

1. はじめに

2020年から，日本だけでなく世界中が新型コロナウイルス感染症（以下，COVID-19）の対応に追われるようになった。日本政府の緊急事態宣言の発令や各都道府県レベルにおいても不要不急の外出を制限するなどの対応が取られるようになり，日本国内の大学において感染症の収束まで非対面授業（以下，オンライン授業）が求められるようになった。

大学における体育授業について，特に実技については，時間のない中オンライン授業での対応が求められている。その中で，自宅でもできる体育実技授業やバスケットボール授業等が報告され¹⁻⁶⁾，オンライン授業での実技の工夫が行われている。しかし，実技におけるオンライン授業については，学生の受講環境が多岐にわたることが想定される。例えば，自宅なのかアパートなのか，1階なのか2階以上なのかなどによって，騒音や振動などの受講場所の問題，リアルタイム受講で生じる，インターネット環境上の問題などが考えられる。

筆者の勤務する大学のバスケットボール実技の授業においても，オンライン授業で行う決定がされた。実技におけるオンライン授業の方法論として，課題をサイトやメール等で掲示し，それらに対し自分自身で実技を行いレポート等で回答する方法，あらかじめ録画された実技映像を視聴する方法（オンデマンド授業），相互同時配信による実技授業などがあげられる。

このようなオンライン授業における実技授業の方法論の検討として，本研究では，対面での授業内容の担保及び学生への視聴負担の回避等を考慮し，バスケットボール実技におけるオンライン授業（オンデマンド授業）を行った内容を報告する。このことにより，近年活用されるようになった体育授業におけるICT教育の観点からも，今後の体育授業についての知見を提供できると考えられる。

* 東京学芸大学教育学部健康スポーツ科学講座 Department of Health & Sports Sciences, Faculty of Education, Tokyo Gakugei University

** 弘前大学教育学部保健体育講座 Department of Physical Education, Faculty of Education, Hirosaki University

*** 八戸学院大学 Hachinohe Gakuin University

2. 授業における実践報告

1) 授業の概要

本授業では、オンライン授業において、バスケットボールの知識の活用及び状況判断力の獲得を狙いに授業設定を行った。これは、文部科学省が、「健やかな体を育む教育の在り方に関する専門分科会」において、体育の目的の具体的内容として新たに「知識」を加えたこと⁷⁾、鬼澤ほか(2006)が状況判断力の向上が小学生のバスケットボールにおける知識獲得に重要であると報告していることなどから⁸⁾、本授業内容とした。以下、表1に詳細を示す。

表1 各授業回の授業内容と詳細

回	内 容	詳 細
1	ガイダンス	授業の受け方や課題の提出方法、質問の仕方などの説明
2	競技特性とルール	競技特性と主なルールの紹介
3	バスケットボールの基礎	様々なドリブルやパス、シュートの紹介
4	コーディネーショントレーニング	バスケットボールのコーディネーショントレーニングの紹介
5	シューティング	レイアップやジャンプシュートを上手く行うためのアドバイス、良くある失敗例の紹介
6	ゲーム性の高い練習&ミニゲーム	ビンゴなどゲーム感覚でスキルを養える運動などの紹介
7	1対1, スキル条件の伴う1対1	攻守の選手が向かい合った状態からの1対1とパスが加わった1対1の紹介
8	2対1	2対1の構造や攻め方, その守り方の紹介
9	オンボールスクリーン	オンボールスクリーンを使った攻め方, その守り方の紹介
10	オフボールスクリーン	オフボールスクリーンを使った攻め方, その守り方の紹介
11	3対2	3対2の構造や攻め方, その守り方の紹介
12	3対3	3対3での攻め方, その守り方の紹介
13	知識テスト	主に状況判断力を問う内容

2) オンデマンド授業の詳細及び工夫

①授業方法

本授業では、オンラインでの授業展開としたが、その中でもオンデマンド方式を採用した。その理由として、学習者の視聴環境（インターネット通信環境、視聴場所）に配慮する観点から採用した。オンデマンド授業の視聴方法は、学内LMS（ラーニング・マネージメント・システム）のWebclassにアクセスし授業動画を視聴すること、指定された動画を視聴しその内容を説明するレポートを提出すること、授業内容に関する事前学習として図書やインターネットで授業内容について調べたレポートを提出することの3つの要素で授業を構成した（図1）。また、それぞれの学習をどのような順番で行っても良いよう視聴の工夫を行った。なお、2つの課題レポートについては、どちらも時間をかけて学習ができるように1つ前の授業回で課題内容を提示し、十分な学習時間を設けるよう配慮した。このように、授業内に2つの課題レポートに取り組んだとしても、授業時間内で完結されるよう動画の時間や課題レポートを調節した。

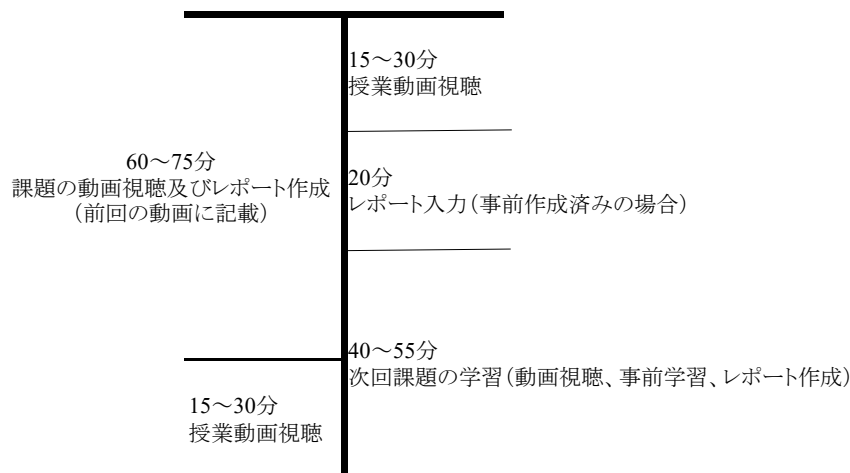


図1 受講者の90分スケジュール

②動画共有サービスの活用

事前に作成した授業動画を動画共有サービス（以下、Youtube）にアップロードし、それを閲覧するという形態で授業を行った。各授業用動画は、15分から30分程度の長さで構成した。授業用動画はWebclassにもアップロード可能であるが、授業時間に学生のアクセスが集中しサーバーがダウンする可能性があったため、学外のサイトで、操作が簡便であり、さらにスマートフォンやタブレット端末でも視聴が可能なYoutubeを使用することとした。なお、動画は限定配信とし、授業を受講する学生のみ視聴可能とした。

③レポート課題の提出方法

初回（第1回）のガイダンス及び最終回（第13回）の知識テストを除く11回の授業全てにおいて、各授業回のテーマに沿った内容の課題レポートを課した。課題レポートは2つあり、1つは指定された動画を視聴し、その内容をまとめ、整理することである。これは、動画内でどのようなプレーや練習を行っているのかを把握し、内容や学習段階の整理を行い、授業内容の確認・理解及び状況判断に必要な知識が取得できているかを確認するものであった。もう1つは、授業毎のテーマについて、それがどういった学習内容なのかを、図書やインターネットを活用し調べ、自分自身の指導の知識として言葉で説明を行うといった課題とした。これは、事前学習としてバスケットボールの専門用語や理論及びトレーニングなどを調べておくことで、学習者がより理解しやすくなるのではないかと考えたためである。以上、2つのレポート課題をフォーム作成ツール（以下、Google フォーム）で提出するようにした。Google フォームを活用した理由は、Webclassなどでもレポートの提出は可能であるが、大学からサーバーが脆弱であるためWebclassの使用は最小限にし、できるだけ学外の機能を使用して授業をするようにと要請があり、ファイルの形式を問わず集計のしやすいGoogle フォームを活用することとした。なお、Google フォームを使用することで、学習者の提出課題の整理として教員側のメリットも考えられるが、フィードバックの観点からデータの集計なども学習者側のメリットもあると考え、採用した。図2に授業で使用したGoogle フォームの抜粋を示す。

バスケットボールA第5回授業レポート

それぞれの項目について自分が調べたことを記入してください。

名前 *

記述式テキスト (短文回答)

学籍番号 *

記述式テキスト (長文回答)

本日の体調 *

良い

普通

食欲がない

息苦しい

熱っぽいまたは熱がある

体がだるい

上記以外の体調不良がある

シューティングについて *

シューティングについて、200字以上で記入しなさい。参考にした資料のURLや名前も忘れずに記入すること。

記述式テキスト (長文回答)

視聴した動画について *

視聴した動画の内容を200字以上で説明しなさい。

記述式テキスト (長文回答)

図2 課題提出で活用したGoogle フォーム（一部抜粋）

④受講生（学習者）との質疑応答

オンデマンド授業の一つの問題点は、相互同時授業ではないことから、質疑応答に応じづらいことがあげられる。その点について、以下のような配慮を行い、学習者側の質問に対応するよう配慮をした。授業内容やレポートについて質問がある場合は、Webclassのチャット機能とオンライン会議サービス（以下、Zoom）を活用した。これらはどちらもリアルタイムでやり取りができる機能で、質問用として活用した。授業はオンデマンド型であったが、授業時間内は教員がチャットやZoomを立ち上げ準備を行い、リアルタイムで質疑応答が行える状態を作り、質問がある学生はチャット入力もしくはZoomに入室し音声で質問ができるという形をとった。このことで完全なオンデマンド型とはならず、疑問や質問が解決できずに授業が進んでしまうといったことがないように配慮した。

⑤授業資料の活用

学習者は体育科教員志望のため、授業者となった際に使用するであろう教材を活用することで、自身の理解を深めるとともに、指導のイメージもし易くなるのではないかと考え、バスケットボール指導教本^{9,10)}及びActive Sports総合版¹¹⁾を参考に資料を作成した。主に参考にした部分としては、シュートやパスなどの技能的部分である。例えば、シュートフォームやシュートの打ち方であり、バスケットボールを専門としていない教員がシュートフォームなどを示範するのは簡単なことではないため、写真を用いてフォームや打ち方を理解しやすいように作成した。これは学習者自身が授業を行う際にも、示範だけでなく写真や動画などで生徒に理解させることもできるという授業づくりの参考になればと考えた。図3にその一部を示す。

・指導のポイント

パス（両手シュートも同じ）
肘を開かない。コントロールがしやすい。



図3 パス指導における資料

また、小学校学習指導要領体育編によると、体育の目標として、「その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする」や「運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う」と明記され¹²⁾、知識や判断力を育成することを目標としていることから、受講者に対して動画を視聴し、指導理論や練習に必要な知識の獲得を確認するための知識テストを作成した。これは、バスケットボールのプレー場面の一部を抜き出し、その後どのようなプレーを行ったか、どのようなプレーで得点をしたのかなどを自由記述にて解答させる内容であった。なお、こちらの知識テストは、小谷・佐々木¹³⁾の作成した、ゲーム状況の認知や、ゲームでの意思決定を養う資料を参考にし、練習問題から主に状況判断力を養うことができるように問題を作成した。図4に問題例を示す。

どのように得点したか？

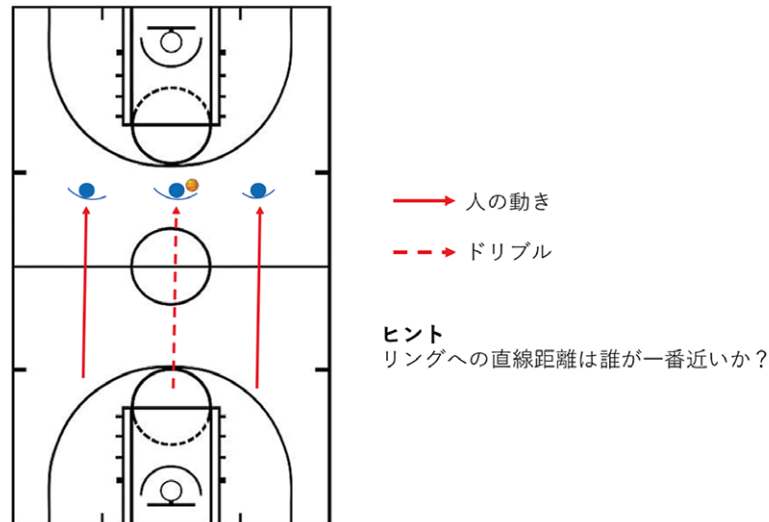


図4 知識テストで活用した問題例

3) 成果と課題

成果として、バスケットボール実技授業終了後の授業アンケートから、「動画だったので繰り返し視聴できて学びが深まった」や「対面で実技ができない分、考える時間が多く取れたので良い機会になった」など、実技が行えなかったが、その分学びが深まるような記述が見られ、認知的学習が促進された可能性が確認できた。また、授業動画をYoutubeから視聴することを選択したことによって、「操作が分からない」や「視聴できない」といったトラブルは確認されなかった。そして、動画内で時折顔出しをして説明する部分があったことで、学習者からは「動画内で顔出しがあったことで、どのような先生から授業を受けているのかわかり安心できた」といった声もあった。さらにGoogleフォームの使用についても、入力途中で誤送信をしてしまう学生はいたが、個人の送信回数は制限しなかったため、何度も送りなおすことができ、大きなトラブルは確認できなかった。さらに、質問用として活用したチャット機能とZoomについては、質問がある学習者はもちろんのこと、「チャット機能を使ったことがないので、どういう形でやり取りができるのか1度使ってみてみたい」や「他の授業でZoomを使用するから練習でつなげて操作方法を確認したい」といった学習者もあり、それに対してリアルタイムで対応できたので、非常に有効な手段であったと感じた。今後、相互同時授業等も想定し、チャット機能やリアルタイムでの質問に応じられる授業づくりの必要性が示唆された。

課題に対する取り組みについては、前半の授業はプレー場面の説明が言葉ではうまくできていない学習者が見られたが、授業が進むにつれて専門用語を交えて説明できる人数が増えてきた。これはレポートで専門用語の学習を行ってきた成果であると思われる。さらに知識テストでは、言葉選びに違いはあれど、ほとんどの学生が正しい解答を導き出していた。これは練習問題を含め、授業で知識を蓄えることができたためではないかと考えられる。竹内ほか(2011)は、バスケットボールの静止画を用いたプレー場面の状況判断テストを単元の前後で行うことで、状況判断テストの得点が高くなったこと、また実際のプレーも状況判断に応じて良くなったことを報告している¹⁴⁾。つまり、本研究の結果からも、実際のプレーでの確認は行えていないが、状況判断力向上の可能性が考えられた。また、欠席者除き、全員授業時間内に課題を提出できており、授業の取り組みませ方や課題量も適切であると考えられる。

一方課題として、体育実技の授業の時間配分は、「運動学習」「認知学習」「学習指導」「マネジメント」の4つに区分し、観察・記録する「授業場面の期間記録法」が知られている^{15,16)}。さらに福ヶ迫ほか(2003)は、ボールゲームの学習場面では、他の競技の学習場面よりも「認知学習」の時間が多いが、学習の半分以上は「運動学習」であると報告している¹⁷⁾。本授業では、「運動学習」の確保が行えず、運動を行うことで得られる技能の習得や体力の向上といった学習の担保が行えなかった。このことから、実技におけるオンライン

授業の1つの課題として、対面で行う授業と同等の実技レベルの担保の難しさが明らかとなった。

さらに学習者が、授業者になった際、オンライン授業のみを受講した場合、「認知学習」と「運動学習」の時間配分を認識できるのかが疑問として残る。今後、オンライン授業時に、これから授業者となるであろう学習者が、実技の時間配分をどのように捉えるのかが課題として考えさせられた。また、実技を行わなかったため、学習者が授業者になった際、バスケットボールの示範を行うことができない可能性が推察できる。授業時に、正しい知識の享受は行えた可能性はあるが、コロナ禍でのオンライン授業という特殊な環境下において体育科教員を目指す以上示範を行えるだけの技能は有しておくべきであると考えられる。今後、オンライン授業時のバスケットボール実技実施について、技能獲得や示範技術獲得の点からも授業の可能性を探る必要性があると考ええる。

3. まとめ

本報告は、実技を伴わないバスケットボールのオンライン授業についてであった。オンライン授業では、授業動画をYoutubeで配信し、Googleフォームでレポート課題を提出する形態で授業を進めた。受講生の質疑応答にはWebclassのチャット機能とZoomを活用した。また、受講者は体育科教員志望のため、授業者になった際に使用するであろう教材を参考にし、授業動画を作成した。さらに、知識テストにおいては、状況判断力や知識獲得の確認のためにプレー場面を説明するテストを作成、実施した。オンライン授業を行った成果として、YoutubeやGoogleフォームの活用など、操作を簡便にしたことで受講者も初めて取り組む形態であったにもかかわらず、大きな混乱もなく授業を進められた。さらに、授業が進むにつれて、専門用語を交えてレポート作成ができたり、知識テストにおいても正しい解答を導き出せていた。

一方課題として、本授業では、「運動学習」の確保が行えず、運動を行うことで得られる技能の習得や体力の向上といった学習の担保が行えなかった。また学習者が、授業者になった際、オンライン授業のみを受講した場合、「認知学習」と「運動学習」の時間配分を認識できるのかが疑問として残る。さらに、授業時に、正しい知識の享受は行えた可能性はあるが、コロナ禍でのオンライン授業という特殊な環境下ではあったが、体育科教員を目指す以上、示範を行えるだけの技能は有しておくべきであると考えられる。今後、オンライン授業時のバスケットボール実技実施について先行研究等を参考にしながら、技能獲得の可能性を探る必要があると考ええる。

オンラインという特殊な環境下での授業において、受講者の学びを促進させるのは非常に困難であった。多くの課題が見受けられたが、そのような状況においても成果がみられたことは、大変有益であった。受講者は困難な状況を乗り越えたことを稀有な経験として、この授業から学んだことを少しでも教育現場で生かすことができることを期待する。

4. 文献

- 1) 小谷究 (2021) オンラインによる大学バスケットボール授業の実践と可能性. 大学体育スポーツ学研究, 18: 56-64.
- 2) 藤野和樹 (2021) オンラインによる大学体育授業の実践報告. 大学体育研究, 43: 99-108.
- 3) 藤木大三 (2020) リモート形式による体育授業に関する一考察. 教育学論究, 12: 89-97.
- 4) 高木由起子・渋谷聡 (2020) 新型コロナウイルス感染症拡大における体育実技系授業の取り組みと今後の可能性の検討. 星槎大学紀要, 16: 82-92.
- 5) 設楽佳世・鈴木久雄 (2021) 体育実技科目のオンライン授業における運動プログラムの有用性. 埼玉女子短期大学研究紀要, 43: 11-27.
- 6) 吉村日出東・石橋裕子・神谷純子・平田敦義・江田慧子 (2021) コロナ禍の大学におけるオンライン授業の実践報告. 帝京科学大学教育・教職研究, 6(2): 87-95.
- 7) 文部科学省 (2005) これまでの審議状況—すべての子どもたちが身に付けているべきミニマムとは?—.
- 8) 鬼澤陽子・高橋健夫・岡出美則・吉永武史・高谷昌 (2006) 小学校体育授業のバスケットボールにおける状況判断力向上に関する検討. スポーツ教育学研究, 26(1): 11-23.
- 9) 日本バスケットボール協会 (2014) バスケットボール指導教本上巻. 大修館書店, 東京.

- 10) 日本バスケットボール協会 (2014) バスケットボール指導教本下巻. 大修館書店, 東京.
- 11) 大修館書店 (2017) Active Sports総合版. 大修館書店, 東京.
- 12) 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領解説体育編. 文部科学省, 東京.
- 13) 小谷究・佐々木クリス (2018) 100問の実践ドリルでバスケiQが高まる. 東方出版, 東京.
- 14) 竹内俊介・岩田昌太郎・嘉数健吾・二宮亜紀子 (2011) バスケットボール授業における認知的トレーニングの有用性. 広島体育学研究, 37: 11-17.
- 15) シーデントップ (1988) 体育の教授技術. 大修館書店, 東京.
- 16) 高橋健夫 (1994) 体育の授業を創る. 大修館書店, 東京.
- 17) 福ヶ迫善彦・スロト・小松崎敏・米村耕平・高橋健夫 (2003) 体育授業における「授業の勢い」に関する検討: 小学校体育授業における学習従事と形成的授業評価との関係を中心に. 体育学研究, 48: 281-297.